



# 2026年3月期 中間期 決算説明

---

(2025年4月1日～2025年9月30日)

2025年11月6日

**イバラ食品工業株式会社**

# 1. Ebara Reboot 2026の進捗

■ 代表取締役社長 森村 剛士

---

# 2. 2026年3月期 中間決算報告

■ 取締役 栗野 裕

注記がない限り、表記の数値はすべて連結ベースです。

本資料の金額は単位未満切捨で表示しております。比率は小数点第1位未満四捨五入で表示しております。

# エバラ食品グループの長期ビジョン (2024-33年度)

## ミッション

- 1 国内/海外における次代の中核を成す多様な人材が育成・登用され、エバラ食品グループが密接に連携したビジネスフォーメーションの実現
- 2 製造体制の変革により、大量生産から多品種少量生産までの対応力UP、液体に加え粉末調味料分野でもビジネス領域を拡大
- 3 自社の技術力、ニッチ&トップ戦略をベースにした健康分野を始めとする新たなビジネス確立と特定領域におけるリーダーカンパニーの地位獲得
- 4 東南アジア地域における自社商品の浸透と、他グローバル地域への拡大
- 5 ICTの利活用を通じた「データ活用型経営」「業務プロセス改革」の実現

2033年度にありたい姿

**おいしさ、たのしさ、あたらしさで  
食カテゴリーを創造する企業**

独自性のある商品・サービスで  
人々の食生活に貢献し、  
社会に必要とされる存在へ

連結  
数値目標 EBITDA **60億円水準**  
ROE **7%以上**

**Final Phase**  
(2030~2033)  
最高益更新

**Next Phase**  
(2027~2029)  
新領域開拓  
事業成長

**First Phase**  
(2024~2026)  
成長への  
基盤固め

中期  
経営計画

**Ebara Reboot 2026**

連結  
数値目標

EBITDA(営業利益+減価償却費等) **40億円**  
海外売上高比率 **5%以上**  
総還元性向 **50%以上**

## 中期 経営計画

# Ebara Reboot 2026

## 重要方針

「売上拡大 = 利益獲得」ではなく、  
「適正な経営資源投下による売上形成・利益最大化」に取り組む

## グループ 基本戦略

1. 既存事業/領域を磨き上げ、高収益化を追求
2. 新市場/新価値創造による新たな成長軌道の確立
3. 従来 of 枠組みに捉われない経営基盤改革の深化

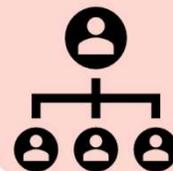
既存事業



新価値創造



人的リソース



ICT化



プロセス改革



## 連結数値目標

EBITDA 40億円 海外売上高比率 5%以上 総還元性向 50%以上  
(営業利益 + 減価償却費)

# ポーション調味料の成長戦略

◆ 津山工場(岡山県)のポーションラインは2024年10月稼働開始後、順調に量産へ

津山工場で稼働開始した新ポーションライン (枠内)



ポーション調味料の価値の拡大



プチツと中華 (2024年度～) **5品**



プチツうどん (2015年度～) **10品** ※季節限定商品を含む



プチツと鍋 (2013年度～) **10品** ※季節限定商品および地域限定商品を含む

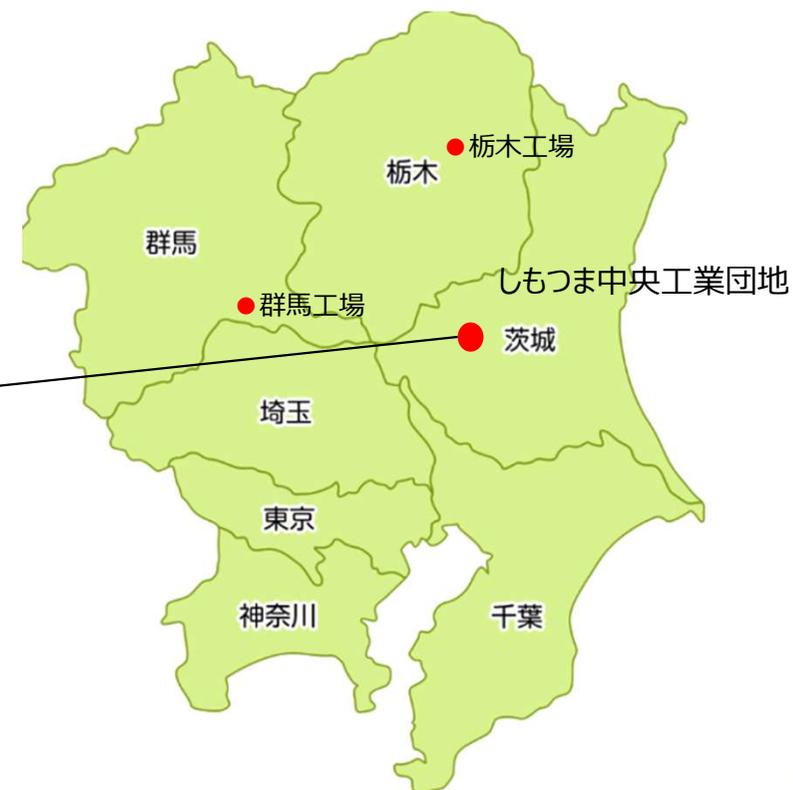
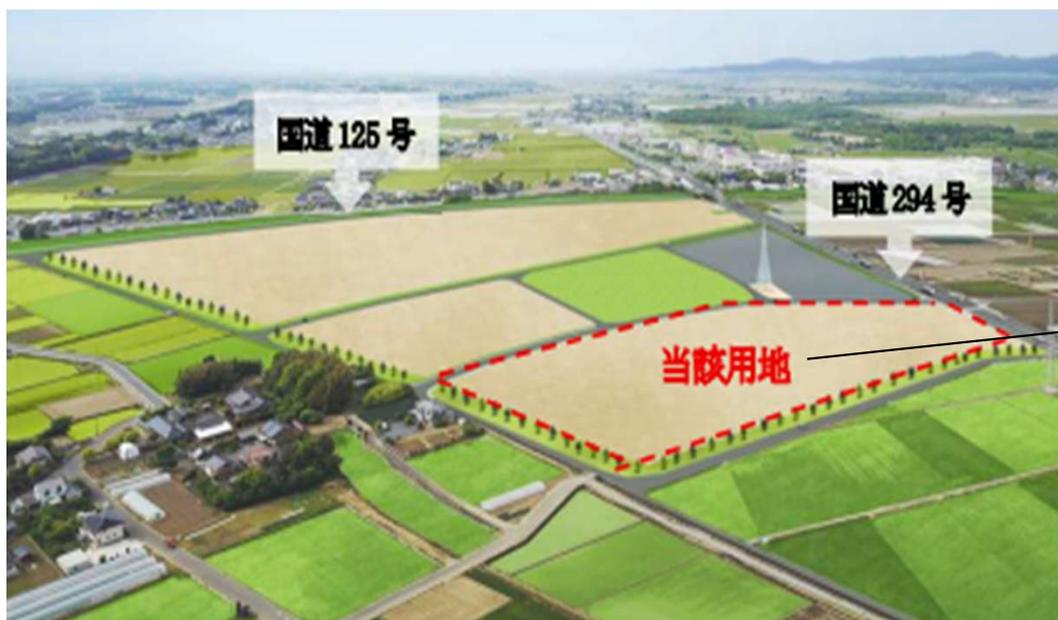


# 製造体制再編に伴う投資

## ◆茨城県「しもつま中央工業団地」に用地を取得し、新工場を建設予定

- ・中長期的な成長の中核を担う最新鋭のモノづくりの拠点として大量生産から多品種少量生産まで対応
- ・当社の工場用地としては最大規模の面積（61,125.45㎡）
- ・第1期の稼働時期は、2028年度頃を予定

## ◆群馬工場の操業停止（2027年3月頃）を決定し、グループ内外の最適地に生産を移転



# 1. Ebara Reboot 2026の進捗

■ 代表取締役社長 森村 剛士

---

## 2. 2026年3月期 中間決算報告

■ 取締役 栗野 裕

注記がない限り、表記の数値はすべて連結ベースです。

本資料の金額は単位未満切捨で表示しております。比率は小数点第1位未満四捨五入で表示しております。

# 連結業績

単位：百万円

**ポーション調味料の販売好調等により前年同期比で増収、  
売上原価(減価償却費)の増加により減益**

(百万円)	2024.9	2025.9	2024.9対比		2026.3計画対比		
			増減	増減率	計画	未達額 ▲は超過額	進捗率
売上高	23,835	24,337	501	2.1%	48,400	24,062	50.3%
売上原価	15,325 64.3%	15,926 65.4%	601 1.1pt	3.9% -			
売上総利益	8,509 35.7%	8,410 34.6%	▲99 ▲1.1pt	▲1.2% -			
販管費	7,278 30.5%	7,334 30.1%	56 ▲0.4pt	0.8% -			
営業利益	1,231 5.2%	1,076 4.4%	▲155 ▲0.7pt	▲12.6% -	1,000 2.1%	▲76	107.6%
EBITDA※	1,823	1,908	84	4.6%			
経常利益	1,272 5.3%	1,130 4.6%	▲142 ▲0.7pt	▲11.2% -	1,200 2.5%	69	94.2%
特別利益	0	547	546	235927%			
特別損失	3	417	414	11996%			
純利益	848 3.6%	835 3.4%	▲12 ▲0.1pt	▲1.5% -	700 1.4%	▲135	119.4%

# 通期業績予想の修正について (2025/11/6 決算と同時開示) 単位：百万円

中間期までの実績と足元の動向を鑑み、通期業績予想を上方修正

	前回発表予想 (A) 2025/5/14開示	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)
売上高	48,400	<b>48,800</b>	400	0.8
営業利益	1,000	<b>1,700</b>	700	70.0
経常利益	1,200	<b>1,900</b>	700	58.3
当期純利益	700	<b>1,300</b>	600	85.7

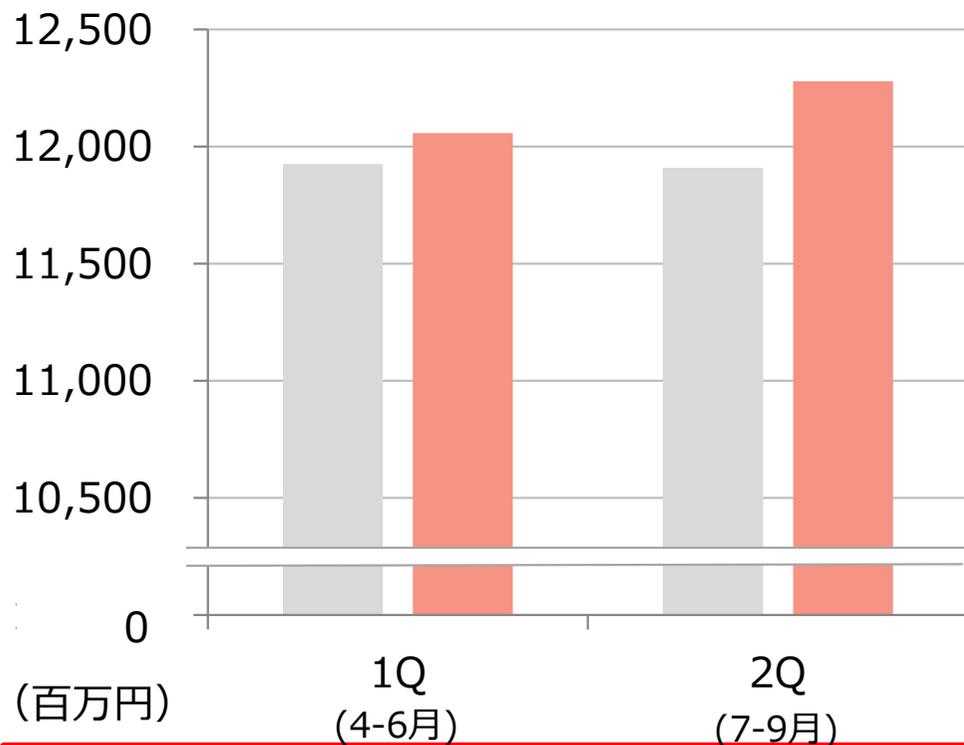
(修正の理由)

売上高の増加や各種コストの削減効果もあり、利益が期初計画を上回って進捗したため

# 売上高・営業利益 四半期推移

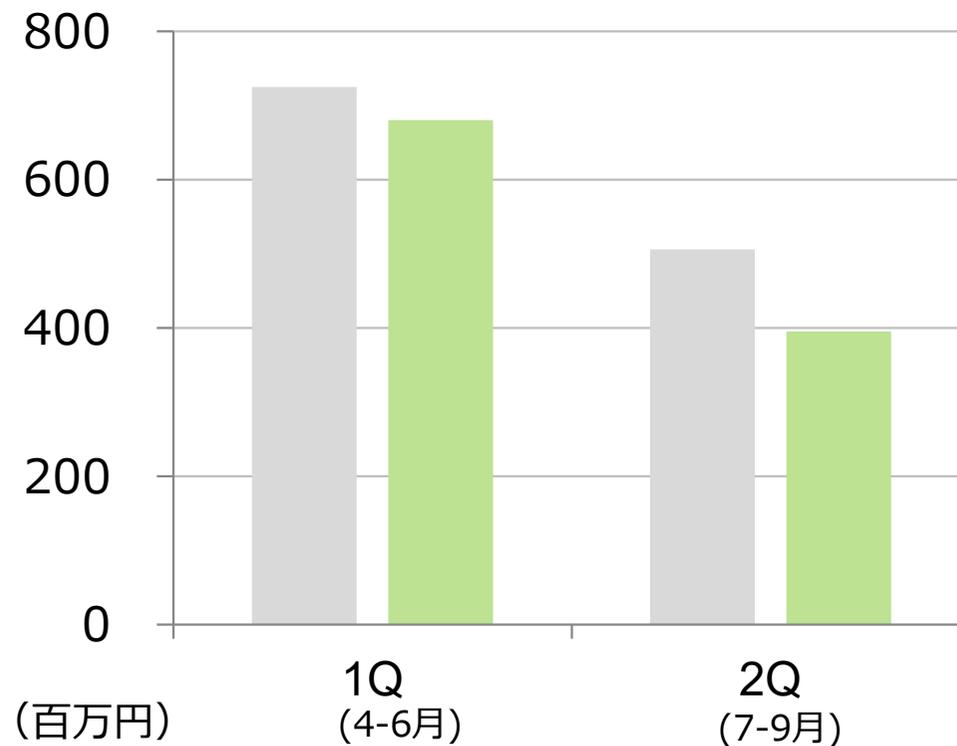
単位：百万円

## 売上高



当期	12,057	12,279
前期	11,926	11,909
増減	131	370
増減率	1.1%	3.1%

## 営業利益



当期	680	395
前期	725	506
増減	▲44	▲110
増減率	▲6.2%	▲21.8%

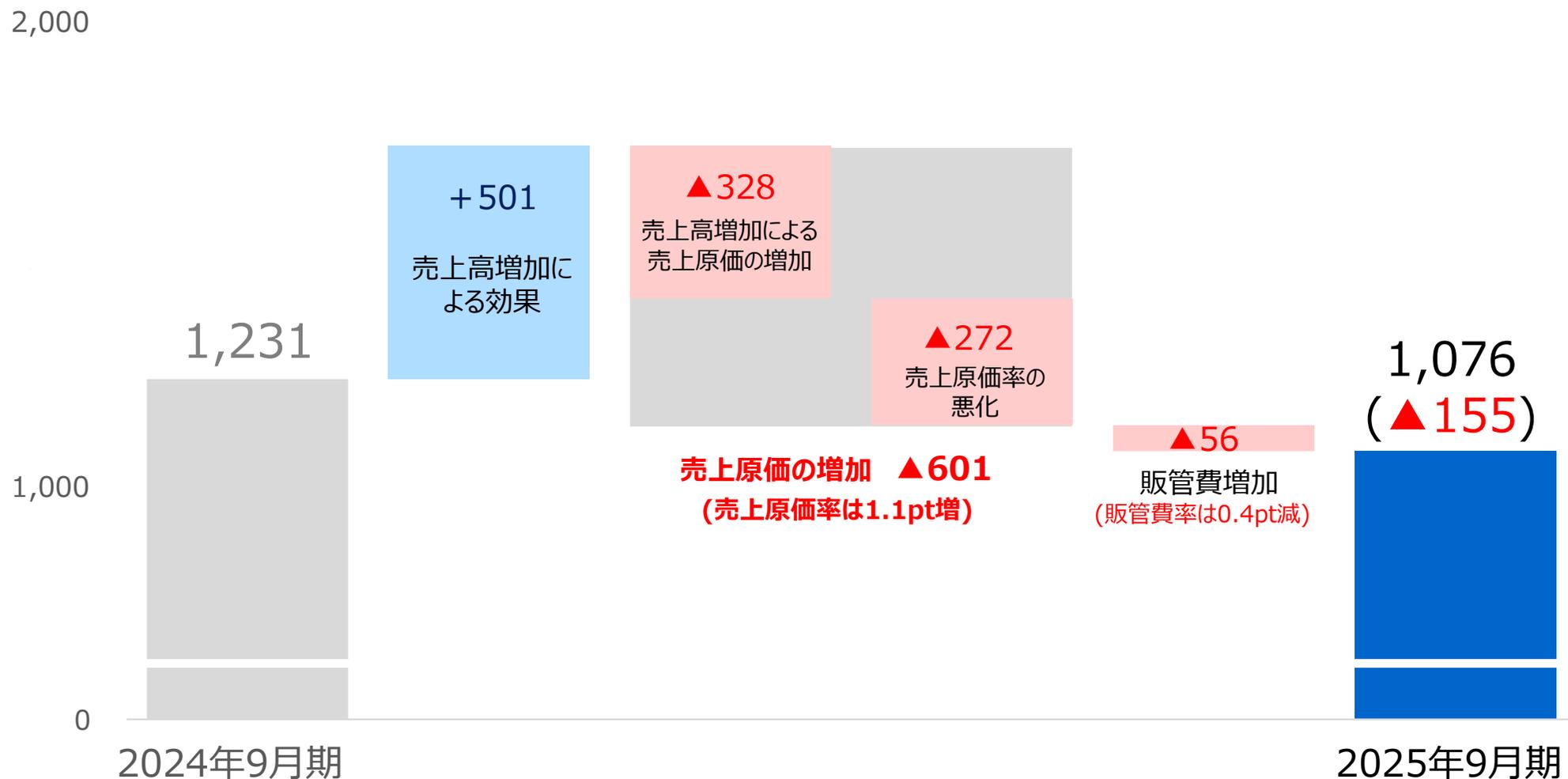
# 営業利益 増減分析(前年同期比)

■ 増益要因

■ 減益要因

単位：百万円

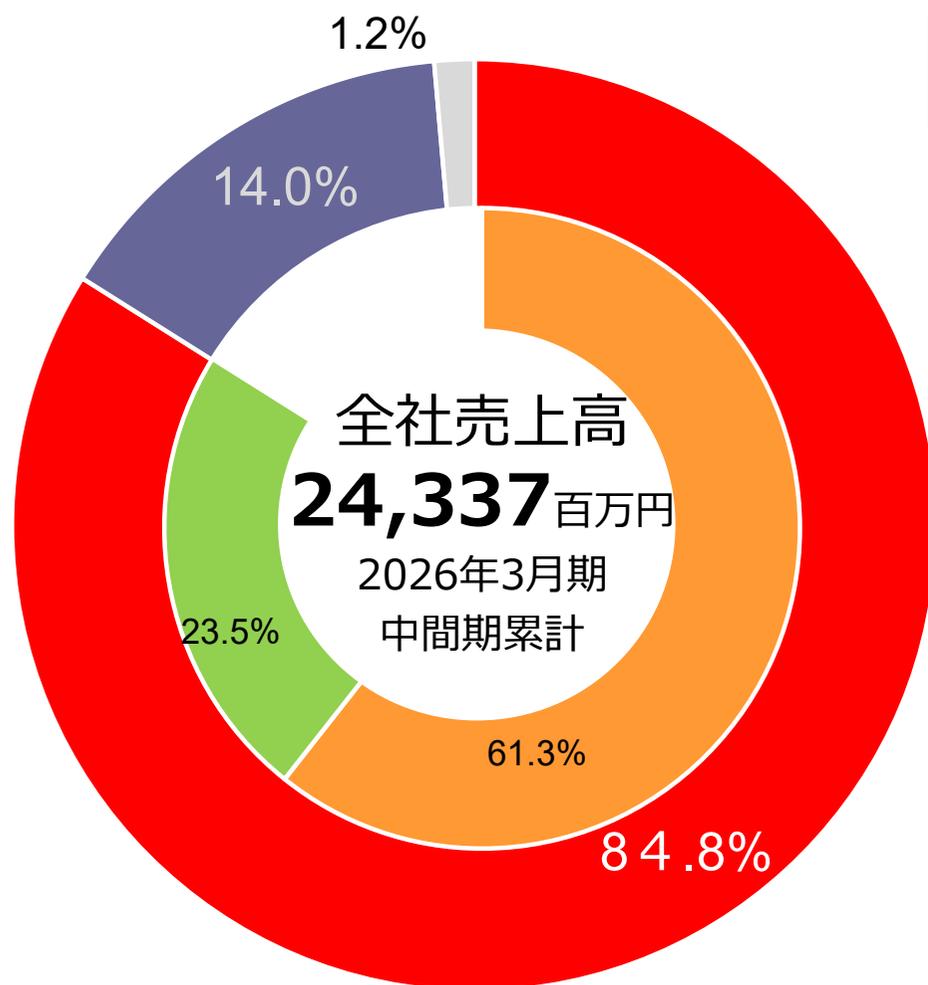
## 売上原価の増加が利益減の主要因



# 2025年3月期 中間期 決算報告

## セグメント・製品区分別 売上高

# セグメント・製品区分別 売上高



<b>食品事業</b>	<b>20,628百万円</b> (前年同期比 3.2%増)
家庭用商品	14,910百万円 (前年同期比 3.1%増)
業務用商品	5,718百万円 (前年同期比 3.3%増)
<b>物流事業</b>	<b>3,400百万円</b> (前年同期比 3.0%減)
<b>その他</b>	<b>307百万円</b> (前年同期比 8.0%減)

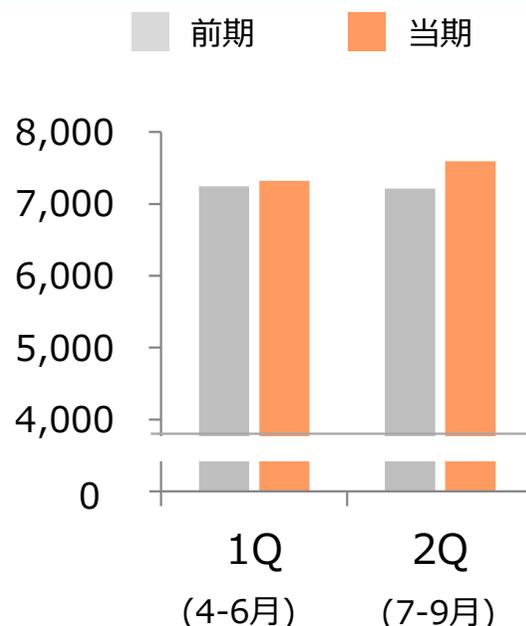
# セグメント・製品区分別 売上高

単位：百万円

## 食品事業（家庭用商品）

売上高増減率  
前年同期比 **+3.1%**

百万円	中間期 累計売上高
2025.9	<b>14,910</b>
2024.9	14,459
増減	<b>+450</b>



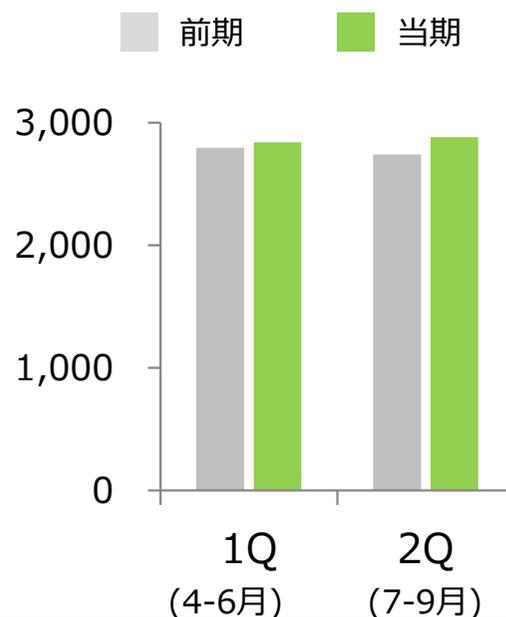
### 鍋物、野菜まわり調味料、その他群が増収

- ・肉まわり調味料群は精肉価格高止まりの中、『おろしのたれ』が堅調に推移し前年同期並み
- ・鍋物調味料群は『プチッと鍋』等が売上貢献
- ・野菜まわり調味料群は、野菜価格の安定により『浅漬けの素』が堅調に推移
- ・その他群は、『プチッと中華』の人気アニメとタイアップの効果と『プチッとうどん』が販売好調がけん引(その他群は前年同期比17.6%増収)

## 食品事業（業務用商品）

売上高増減率  
前年同期比 **+3.3%**

百万円	中間期 累計売上高
2025.9	<b>5,718</b>
2024.9	5,534
増減	<b>+183</b>



### スープ群の好調に加え、丸二株式会社が増収

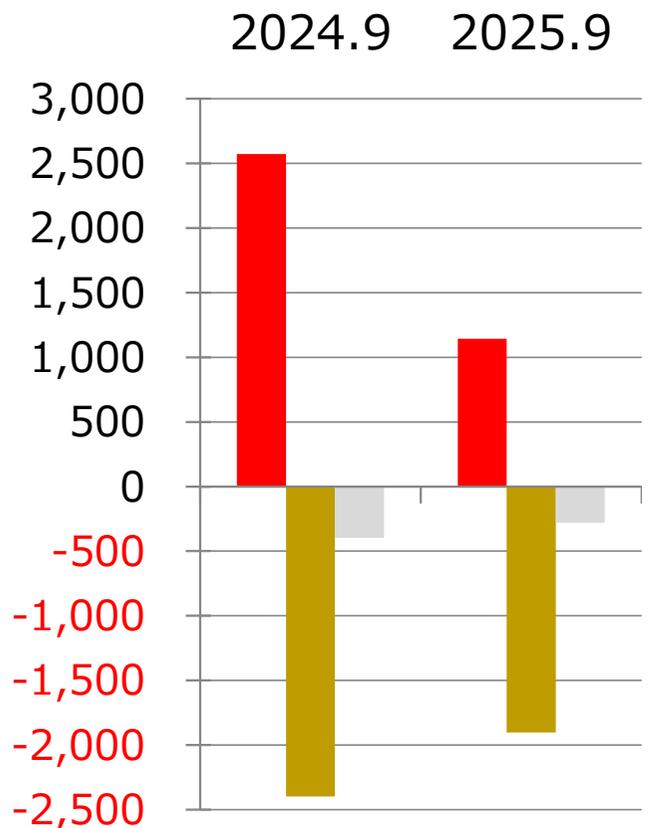
- ・肉まわり調味料群は減収
- ・スープ群は、新商品の貢献等により増収
- ・その他群は、連結子会社の丸二株式会社の売上増加等もあり増収

# 2026年3月期 中間期 決算報告

## キャッシュ・フロー

# キャッシュ・フロー

単位：百万円



■ 営業CF   
 ■ 投資CF   
 ■ 財務CF

	2024.9	2025.9	増減
営業キャッシュ・フロー	2,573	1,556	▲1,017
投資キャッシュ・フロー	▲2,397	▲1,903	493
財務キャッシュ・フロー	▲398	▲279	118
現金及び現金同等物の増加額 (▲は減少額)	▲150	▲608	▲458
現金及び現金同等物の期末残高	14,229	14,383	154

2025.9

営業CF 税金等調整前四半期純利益 1,259百万円

減価償却費 819百万円

売上債権の増加 ▲921百万円

※前年同期は売上債権の減少により営業CFへの影響が+1,973百万円であり、合わせて▲2,875百万円の増減影響

投資CF 有形固定資産の取得 ▲2,208百万円

投資有価証券の売却 655百万円

財務CF 配当金の支払 ▲244百万円

# 通期業績予想の修正について (2025/11/6 決算と同時開示) 単位：百万円

中間期までの実績と足元の動向を鑑み、通期業績予想を上方修正

	前回発表予想 (A) 2025/5/14開示	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)
売上高	48,400	<b>48,800</b>	400	0.8
営業利益	1,000	<b>1,700</b>	700	70.0
経常利益	1,200	<b>1,900</b>	700	58.3
当期純利益	700	<b>1,300</b>	600	85.7

(修正の理由)

売上高の増加や各種コストの削減効果もあり、利益が期初計画を上回って進捗したため

# ～ 参考資料 ～

# セグメント・製品区分別 売上高

増収：家庭用商品(鍋物、野菜まわり、その他)、業務用商品(スープ、その他)

減収：家庭用商品(肉まわり)、業務用商品(肉まわり)、物流事業、その他

事業名称及び商品群名	2024.9 (2024年4月 ~2024年9月)	2025.9 (2025年4月 ~2025年9月)	増減	増減率
<b>食品事業</b>	<b>19,994</b>	<b>20,628</b>	<b>634</b>	<b>3.2%</b>
家庭用商品	14,459	14,910	450	3.1%
肉まわり調味料群	6,877	6,846	▲30	▲0.4%
鍋物調味料群	3,473	3,526	52	1.5%
野菜まわり調味料群	1,807	1,831	24	1.3%
その他群	2,300	2,705	404	17.6%
業務用商品	5,534	5,718	183	3.3%
肉まわり調味料群	1,723	1,703	▲20	▲1.2%
スープ群	1,689	1,840	150	8.9%
その他群	2,122	2,175	53	2.5%
<b>物流事業</b>	<b>3,506</b>	<b>3,400</b>	<b>▲105</b>	<b>▲3.0%</b>
<b>その他</b>	<b>334</b>	<b>307</b>	<b>▲26</b>	<b>▲8.0%</b>
<b>合計</b>	<b>23,835</b>	<b>24,337</b>	<b>501</b>	<b>2.1%</b>

# セグメント・製品区分別 売上高

単位：百万円

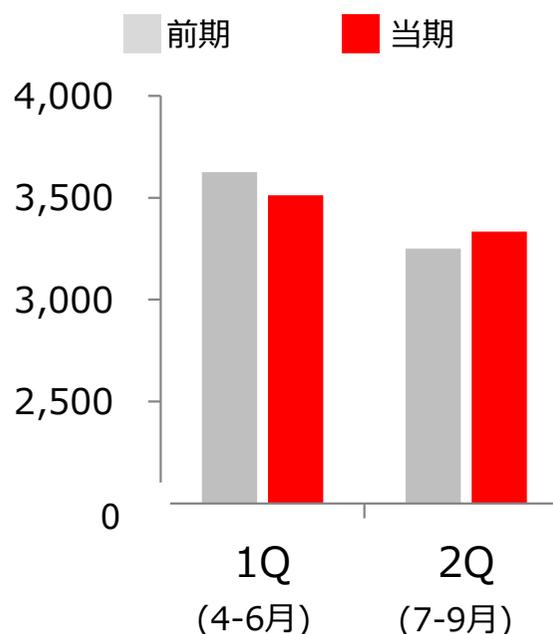
## 食品事業（家庭用商品）

### ● 肉まわり調味料群

売上高増減率  
前年同期比 ▲0.4%

(百万円)	中間期 累計売上高
2025.9	6,846
2024.9	6,877

増減 ▲30



精肉価格の高止まりが続く中、  
前期2月にリニューアルした  
『おろしのたれ』が堅調に推移

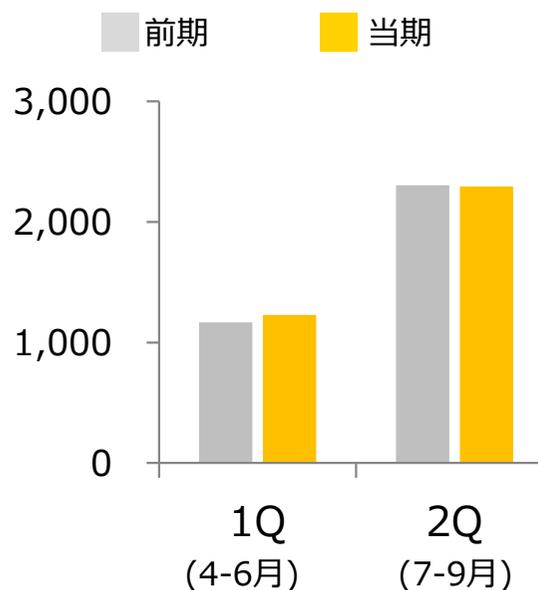


### ● 鍋物調味料群

売上高増減率  
前年同期比 +1.5%

(百万円)	中間期 累計売上高
2025.9	3,526
2024.9	3,473

増減 +52



ポーション調味料の『プチッと鍋』等  
の貢献



# セグメント・製品区分別 売上高

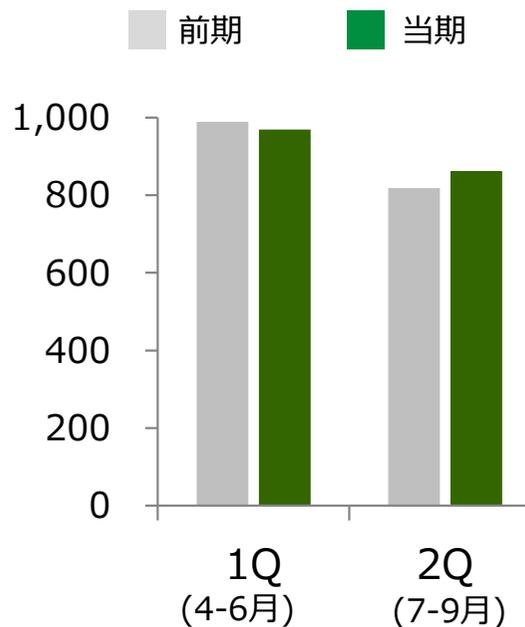
単位：百万円

## 食品事業（家庭用商品）

### ● 野菜まわり調味料群

売上高増減率  
前年同期比 **+1.3%**

(百万円)	中間期 累計売上高
2025.9	<b>1,831</b>
2024.9	1,807
増減	+24



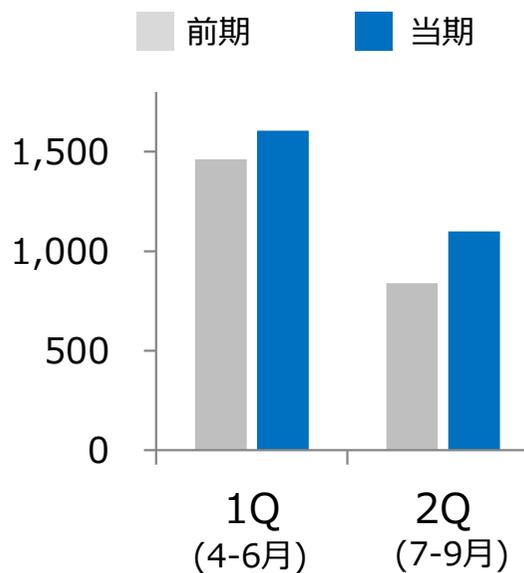
昨年対比で野菜価格が安定し、『浅漬けの素』が増収



### ● その他群

売上高増減率  
前年同期比 **+17.6%**

(百万円)	中間期 累計売上高
2025.9	<b>2,705</b>
2024.9	2,300
増減	+404



『プチッとうどん』の売上伸長や『プチッと中華』が人気アニメとタイアップしたプロモーション効果による増収



## 〔参考資料〕 会社概要

商号	エバラ食品工業株式会社
本店所在地	横浜市西区みなとみらい四丁目4番5号
代表者	代表取締役社長 森村 剛士
事業内容	調味料食品の製造販売
資本金	13億8,713万円
設立	1958年（昭和33年）5月
従業員数	【連結】870名 【単体】516名（2025年3月末時点）
連結子会社	株式会社 エバラビジネス・マネジメント 株式会社 横浜エージェンシー & コミュニケーションズ 株式会社 エバラ物流 株式会社エバラフーズ・サービス 丸二株式会社 EBARA SINGAPORE PTE. LTD. 荏原食品（上海）有限公司 荏原食品香港有限公司 台湾荏原食品股份有限公司 EBARA FOODS (THAILAND) CO., LTD. EBARA FOODS MALAYSIA SDN. BHD.
持分法適用会社	株式会社スギショーテクニカルフーズ

## 〔参考資料〕 沿革①

- 1958年 5月 荏原食品株式会社 設立
- 1968年 1月 『札幌ラーメンの素（味噌スープ）』発売
- 3月 『焼肉のたれ・朝鮮風』発売
- 7月 エバラ食品工業株式会社に商号変更
- 1970年 4月 テレビCM 開始
- 1978年 6月 『黄金の味』発売、テレビCMを全国一斉放映
- 1980年 7月 群馬工場（群馬県伊勢崎市）稼働
- 1984年 4月 栃木工場（栃木県さくら市）稼働
- 1 1月 宣伝部門を独立 株式会社横浜エージェンシーを設立
- 1990年 5月 株式会社エバラ物流を設立
- 1994年 4月 津山工場（岡山県津山市）稼働
- 2003年 1 1月 日本証券業協会に株式を店頭登録
- 2004年 9月 株式会社サンリバティー横浜（人材派遣業）を子会社化
- 1 2月 ジャスダック証券取引所（当時）に株式を上場
- 2005年 4月 荏原食品（上海）有限公司を設立
- 2011年 6月 チルド事業に関する合併会社 株式会社エバラCJフレッシュフーズを設立
- 2012年 1 1月 荏原食品香港有限公司を設立
- 2013年 1 1月 東京証券取引所市場第二部に市場変更
- 2014年 4月 株式会社横浜エージェンシーが株式会社サンリバティー横浜を吸収合併
- 5月 株式会社横浜エージェンシーが株式会社横浜エージェンシー＆コミュニケーションズに商号変更
- 5月 本社を横浜市西区みなとみらい四丁目に移転
- 1 2月 東京証券取引所市場第一部に指定

## 〔参考資料〕 沿革②

2015年	3月	荏原食品香港有限公司 シンガポール支店を設立
2017年	1月	台湾荏原食品股份有限公司を設立
2018年	8月	EBARA SINGAPORE PTE. LTD.を設立
2021年	6月	EBARA FOODS (THAILAND) CO., LTD.を設立
2021年	10月	合併会社 株式会社エバラCJフレッシュフーズの全株式を譲渡
2022年	1月	株式会社スギショーテクニカルフーズの株式を取得
2022年	4月	株式会社エバラビジネス・マネジメントを設立
2022年	5月	EBARA FOODS MALAYSIA SDN. BHD.を設立
2022年	5月	ヤマキン株式会社の株式を取得
2023年	10月	丸二株式会社の株式を取得
2025年	4月	株式会社エバラフーズ・サービスを設立

# 免責事項

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により、実際の結果と異なる可能性があります。実際の業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

- 主要市場における景気動向
- 為替動向、金利変動
- 資本市場の動向
- 価格競争の激化
- 調達環境の変化
- 提携、アライアンス、技術供与による競争関係の変化
- 公的規制、政策、税務に関するリスク
- 製品、サービスの欠陥や瑕疵に関するリスク
- 研究開発投資、設備投資、事業買収・事業再編等に関するリスク
- 自然災害や突発的事象発生に関するリスク
- 会計方針の変更

こころ、はずむ、おいしさ。

# エバラ

※ この資料に記載されております業績見通し等の将来に関する記載は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

※ 本資料の金額は単位未満切捨で表示しております。比率は小数点第1位未満四捨五入で表示しております。

● お問い合わせ先：広報IR部（TEL 045-226-0240）